

ゼミナール決定参考資料

教員名: 吉田 修 指導教科: アジア政治

① 研究・関心領域内容

1. 開発援助はいかに始まったか: 1950-60年代における国際政治経済の変化とインド
2. 南アジア国際関係、3. インドにおける連邦的發展と州政治、
4. 紛争後社会の再建: フィリピン・ミンダナオのバンサモロ地域平和構築支援

② 自己紹介<こんな学生を募集しています>

コロナ禍でフィールドワークが難しくなりましたが、もともと私はあちらこちらに行って、自分の眼でいろいろなことを直接見て知ることをモットーとしています。昨年度から海外調査を再開しましたが、座学だけでなく、動いて、見て、感じて勉強したい学生を歓迎します。また、ゼミを通じて達成感のある大学生活を提供することに努めますので、そういうことをゼミに期待する学生を求めます。なお、来年度末で定年退職予定なので、これが最後のゼミ募集になります。

③ 現在の人数: 三年生 2人 四年生 2人

④ ゼミのテーマ、方針、学習・研究内容

前期は最初にアジアを担当地域に分け、毎回の前半に新聞記事をもとにした「週間報告」をしてもらいます。その後、アジア政治に関連する新書を中心とした文献を毎週読んでいき、共通の認識の形成に努めます。前期の終わりに、12月に行われる「名古屋国際関係合同ゼミナール」で発表するテーマを決定します。

後期は上記発表の準備を行います。発表終了後は、希望があれば、個別の研究テーマを設定して卒業論文作成に取り組んでもらっていました。

⑤ 授業形態(発表、討論、講義など)

基本的には課題についてゼミ生が報告し、それを全員で討論するという方法です。後期は発表のための準備が中心になりますが、方法的には同様です。

後期の発表のために、調査旅行を行いたいと思っています。アジアのどこか、ですが、これは皆さんの希望次第です。発表準備合宿も再開したいと思っています。

⑩ 最後にゼミのPRをお願いいたします!

問題の発見や課題の設定、分析、それに結果のプレゼン法などをしっかり学習してもらいますので、社会に出ても、研究を続けても、大いに役に立つゼミです。ぜひ自己アピールにも応用してください。もともとはモービリティの高さが売りでしたが、昨年は3年ぶりに海外調査旅行を実施しました。とはいえ、たとえ演習室を出ることが難しくても、さまざまに異なるものの見方を学び、世界を彩り美しいものにする、というのが「アジア政治」の目的です。「アジア政治」ゼミに入って、複眼的で切れ味鋭い、そして他人の痛みを理解した上で人の前でしゃべることのできる人間になってください。「多様性」がキーワードです。

⑥ 現在のゼミの様子、雰囲気

今年は12月15日に行われる名古屋での発表の準備中です。「豊かさとは何か」をめぐって、台湾の夕食文化の持つ社会的意義に関する調査を行うべく、さまざまな文献を読んで勉強しています。現地調査も準備中です。

⑦ ゼミ生に希望すること

(合ゼミも個別も)テーマの設定から研究成果(発表や卒論・懸賞論文)まで、ゼミ生の自主性を尊重しますので、積極的な参加を望みます。高い質を求めてしっかり指導しますので、分析やプレゼンの仕方が身につく、社会に出ても役立ちますよ。

⑧ 成績評価の方法

少人数ですので、日ごろのパフォーマンスで評価します。

⑨ ゼミ生選考方法

来る者は拒まず。